

座波次雄さん

1932(昭和7)年2月20日生まれ

民間人

所属 玉城国民学校

戦地 玉城村百名(現南城市)



一度北部に疎開したが、すぐ父と叔父が防衛隊に行く事になり、馬など大きな動物の世話をする人間がいなくなるから帰って来いと連絡があつて戻った。当時空いた家には皆兵隊が入っており、私の家にも2個分隊が入っていた。疎開の前後から学校は閉鎖されており、陣地構築やたこつぼ掘りに駆り出されて、ザルで土を運んでいた。

●1945(昭和20)年 彼岸の翌日 艦砲射撃が始まる

2日ぐらい下の山に隠れて、それから今のゴルフ場のところにイクサが来る前に壕を準備していたので、移っていったら、そこにもう先に移った日本軍がおる。あれっ、われわれがやったのについて、もう兵隊がおつていけないわけです。中に水があったので、いいところだつて準備したらいいんだけど。長くやっさもっさして、それなら奥の方に入りなさいと。3~4週間いました。

●百名に戻り墓穴にこもる

米兵がそこまで来ているから下に下がりなさいと言われて、逆にまたこっちに帰ってきた。もう壕は無いんだから、皆墓を開けて、瓶を外に出して入った。昼はふたを閉めて、夜は水汲みとかに出て、これを繰り返している。墓の中に入って紐でふたを引っ張って、開ける時は押し倒して。誰が見ても分かると思うのに周囲にあった葉っぱを持ってきて外に立てたりして、そんな小細工をしている。排泄も飼料用の桶を持ってきて中でやっていた。

●防衛隊に召集された父と叔父

うちの親父は兵役の経験があり、防衛隊に召集されて班長だったらしい。玉泉洞(玉城にある鍾乳洞)に防衛隊の本部があり、そこから首里や浦添まで、家の馬車で弾薬を運搬していた。馬に直撃弾が当たって、1人は即死、うちの親父も半死で陸軍病院に運ばれたらしい。

叔父は西原の高地で戦闘に参加している。たこつぼが押しつぶされて、4名一緒だった残りの3名は分からない。うちの叔父は助かってふらふら出てきたのを、防衛隊の人から「あんたの兄貴は山川橋の方で完全に馬と馬車が空中分解しているから死んだんじゃないか」と聞いて、防衛隊だから伝えに出て来るわけにいかないと思しんだらしい。親父が玉泉洞に届けられたらしいと風の頼りに聞いて、脱走兵みたいに逃げて、うちに伝えに帰って来た。

いろいろ綱を集めてぼっこみみたいなのを作って、棒切れを通して、叔父と2人で担いで行ったのを覚えている。叔父は防衛隊を逃げてきているから何かあつたら隠れる。僕に「見てきてみ」と言つて。

壕に行つて、叔父は「そこにおるはずだから、行って探して来い」と。僕は子供だから何やら分からない。「おとう、おとう」と言つても返事も無い。「いないよ」と言つても、叔父は「間違いなくここにおるんだ」と。やっぱり僕が呼んでもなんともない。叔父が行つて「二郎、二郎」と言つたら中から返事がしおつた。手探りして真っ暗いところを行つたら、うちの親父は首に手榴弾をかけられて、わざと入り口の方だった。中から出てくるのを殺せということで、だから手榴弾を七つぐらい首にかけられとつた。

親父を担いで来た。担ぐといっても叔父と僕は背の差があるから、僕の方にのしかかってくる。本当に苦しみながら連れて来た。足がだらだらしているから、痛みなんか分からない。我々も苦しいからそのまま引っ張つて。

墓の中におる時に、日本の敗残兵がいる。その中に衛生兵がいるんだと聞いて、叔父さんが行つたら大変だから、僕が行つて連れてきて。薬もないんですよ。治るからと慰められて。しばらくすると松葉杖で歩けるようになった。

●早くに民間人の収容所となつた百名

百名は、摩文仁あたりで捕虜になって上がつてきてここらへんで米軍に放り出されて、捕虜民がいっぱい自由に生活しているわけですよ。それをわれわれこの部落の人は知らないわけですよ。墓の中に入ってるもんだから、まだイクサは続いているもんだと。

親父は松葉杖でやっと歩きよつた。その親父が、どうもおかしいんだ、人の声もする、道端を上がつて来た人がおる。調べて200人ぐらいの人がうろちよろしている、大里とか中城とか南の方の人たちだ。私の家は残っていたけれど、人がいっぱい足踏み場がない。

どんな人たちだと聞いたら、あそこで捕虜されたけど、ここで放り出されて生活していると。「あの人たちは捕虜されたんだ、われわれは捕虜されてない」と何だか誇らしげに下の墓で暮らしているわけですよ。

米軍が大きな犬を放して、マイクで「爆破するから出なさい、何もしないから出なさい」と。僕と姉がキビ畑に行つてキビをかじっていると急に火が燃え始めた。米軍が焼いている。その晩、かえつてこれは危ないと。うちの親父が前の年まで区長だったから、上がつてみたら捕虜民がおるけれど殺さないみたいよと、山の中を口伝で伝えた。とうとう一緒に出た。

(取材日:2013年2月6日)